

# スーパーマーケット販売統計調査資料

2023年10月実績 速報版

9月実績 確報版

(2023年11月21日公表)

## 調査資料概要

### 【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

### 【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

### 【速報版・確報版】

速報版：前月販売実績を速報値として公表 確報版：速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

### 【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

### 【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)		

### 【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2023年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2023年10月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	104,210,908	100.0%	105.3%	104.3%
食品合計	96,589,995	92.7%	105.9%	104.9%
生鮮3部門合計	36,620,006	35.1%	105.0%	103.9%
青果	14,956,525	14.4%	107.4%	106.4%
水産	8,946,898	8.6%	105.3%	104.1%
畜産	12,716,583	12.2%	102.2%	101.0%
惣菜	11,098,858	10.7%	106.2%	104.9%
日配	21,751,170	20.9%	107.7%	106.6%
一般食品	27,119,962	26.0%	105.7%	104.7%
非食品	5,599,800	5.4%	97.6%	97.4%
その他	2,021,169	1.9%	99.4%	98.5%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,944,507	43	104.9%	104.4%
関東地方	38,559,514	73	107.9%	106.7%
中部地方	12,860,931	53	105.0%	103.4%
近畿地方	23,036,387	44	103.7%	102.9%
中国・四国地方	10,638,316	34	107.0%	105.0%
九州・沖縄地方	5,171,253	23	100.7%	101.0%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	510,037	43	97.2%	101.3%
4~10店舗	4,575,217	86	102.5%	102.9%
11~25店舗	8,397,754	49	103.8%	103.4%
26~50店舗	19,223,096	47	105.9%	104.6%
51店舗以上	71,504,804	45	105.6%	104.4%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	102,527,067	
総店舗数 (店舗)	8,370	店舗平均月商 (万円)	12,451	
総売場面積 (㎡)	13,931,664	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.5	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2023年11月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2023年9月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	100,513,773	100.0%	104.8%	103.8%
食品合計	92,592,260	92.1%	105.4%	104.3%
生鮮 3 部門合計	34,242,351	34.1%	104.2%	103.4%
青果	14,614,645	14.5%	105.7%	104.7%
水産	8,299,042	8.3%	106.3%	105.1%
畜産	11,328,664	11.3%	100.8%	100.6%
惣菜	11,433,107	11.4%	107.4%	106.0%
日配	21,261,578	21.2%	108.8%	107.1%
一般食品	25,655,225	25.5%	103.4%	102.5%
非食品	5,909,357	5.9%	100.1%	99.9%
その他	2,012,198	2.0%	98.5%	97.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,519,463	43	105.0%	104.6%
関東地方	37,000,780	73	105.3%	104.1%
中部地方	12,411,128	53	105.4%	104.1%
近畿地方	22,351,712	44	103.5%	102.5%
中国・四国地方	10,234,086	34	105.3%	104.0%
九州・沖縄地方	4,996,604	23	103.9%	104.4%

保有店舗数別集計

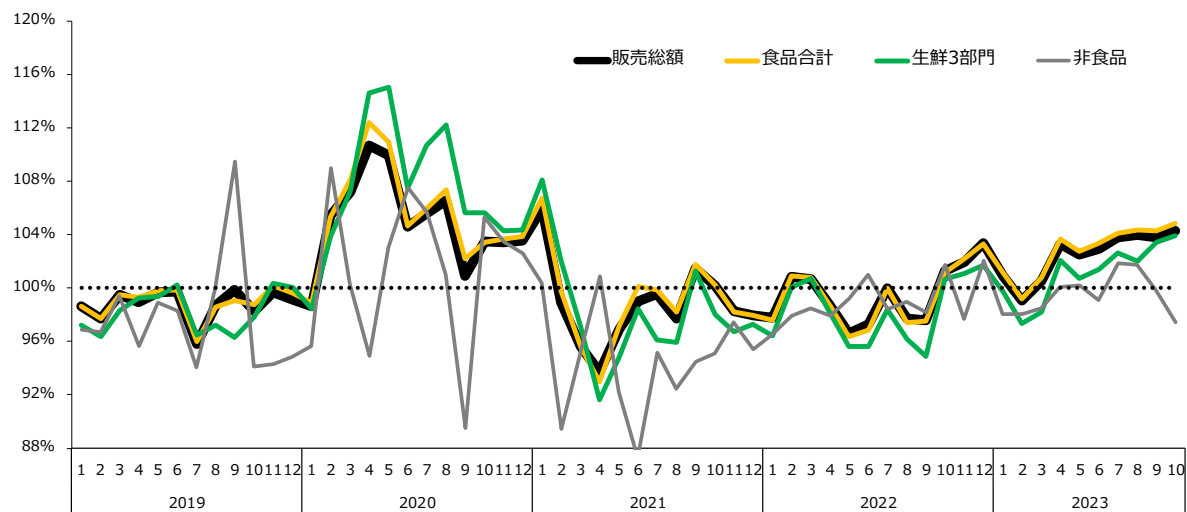
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	495,573	43	95.7%	99.2%
4~10店舗	4,439,001	86	102.0%	102.4%
11~25店舗	8,114,211	49	103.0%	103.2%
26~50店舗	17,980,832	46	105.2%	103.8%
51店舗以上	69,484,157	46	105.1%	104.0%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	98,463,473	
総店舗数 (店舗)	8,365	店舗平均月商 (万円)	12,016	
総売場面積 (㎡)	13,923,496	売場 1 ㎡あたり売上高 (万円)	7.2	

※売上高は税抜金額

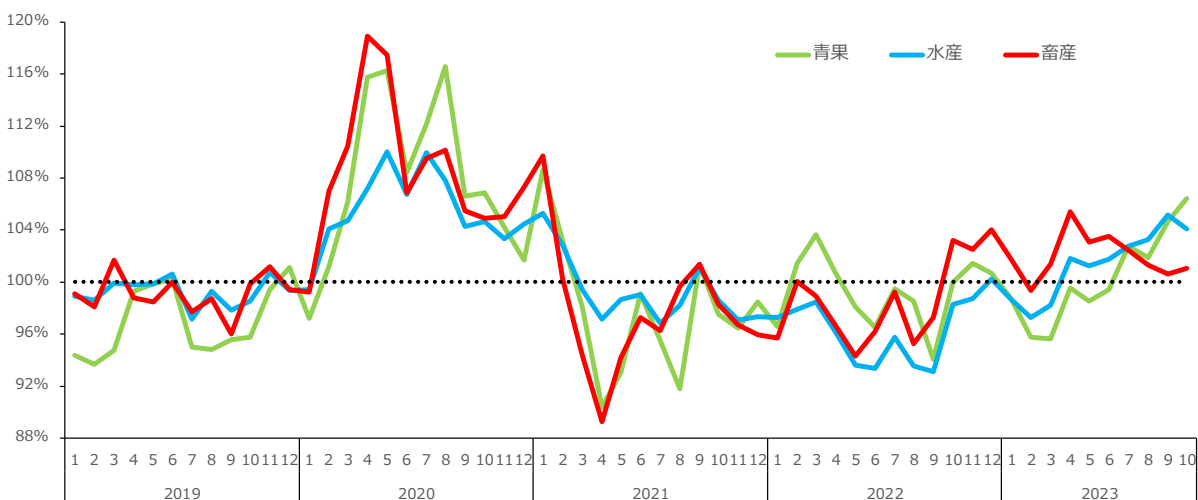
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

# スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比（既存店）推移 2019年1月～

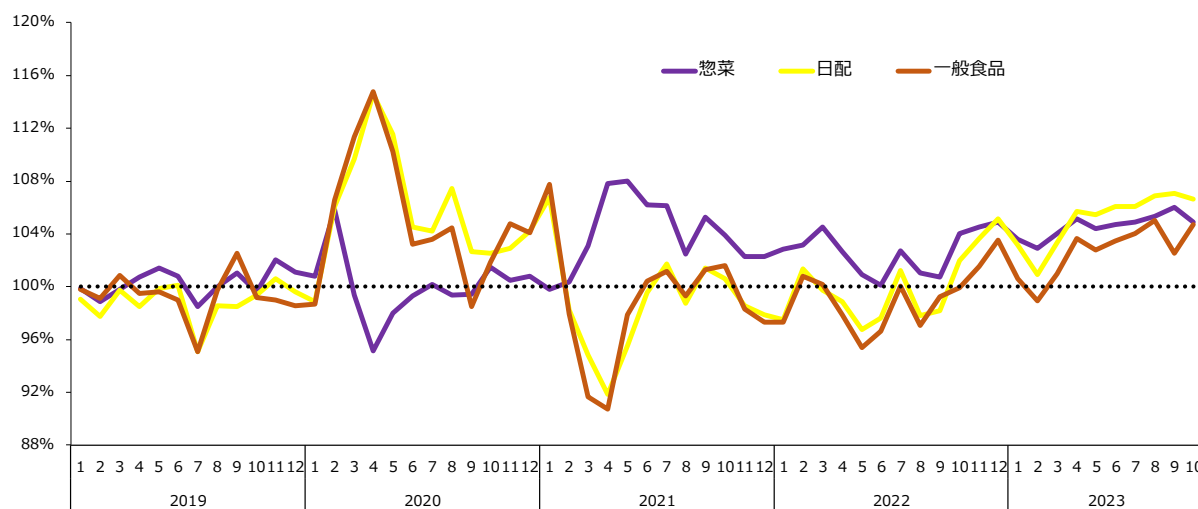
## 総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



## 青果・水産・畜産



## 惣菜・日配・一般食品



※2023年10月実績は速報版

## 2023年10月 エリア別気候状況

### 10月の気温：北日本でかなり高かった

上旬：北日本で高かった

中旬：北日本で高かった。

下旬：北日本で高かった。一方、西日本で低かった。

### 2022年10月との比較：北日本で前年よりやや高くなったほかは、前年並みだった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2023年10月 (今年)			2022年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	0.7	1.3	0.8	-0.2	0.9	-0.2	0.9	0.4	1.0
太平洋側	0.9	1.4	0.8	-0.2	0.7	-0.2	1.1	0.7	1.0
東日本 日本海側	-0.1	0.2	-0.1	-0.2	-0.4	-0.8	0.1	0.6	0.7
太平洋側	-0.2	0.3	0.1	-0.3	0.2	-1.3	0.1	0.1	1.4
西日本 日本海側	0.0	0.3	-0.4	0.3	-0.5	-0.3	-0.3	0.8	-0.1
太平洋側	-0.2	-0.1	-0.6	0.3	-0.2	-0.2	-0.5	0.1	-0.4

#### 平年差

+2°C以上  
+1°C以上

-2°C以上  
-1°C以上

#### 前年差

+2°C以上  
+1°C以上

-2°C以上  
-1°C以上

### 10月の日照時間：全国的に多く、特に北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多かった

上旬：東・西日本日本海側、西日本太平洋側で少なかった。

中旬：全国的に多く、東日本日本海側と北・東日本太平洋側でかなり多かった。

下旬：全国的に多く、北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多かった。

### 2022年10月との比較：中旬東日本太平洋側で前年より多かったほかは、ほぼ前年並みだった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2023年10月 (今年)			2022年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	96	121	126	87	103	129	9	18	-3
太平洋側	106	131	127	75	101	121	31	30	6
東日本 日本海側	82	141	122	65	102	142	17	39	-20
太平洋側	97	161	156	85	89	128	12	72	28
西日本 日本海側	87	126	157	91	113	134	-4	13	23
太平洋側	85	125	162	91	114	136	-6	11	26

#### 平年差

平年比150%以上  
平年比125%~149%

平年比50%以下  
平年比51%~75%

#### 前年差

+50%以上  
+25~49%

-50%以下  
-25~-49%

### 10月の降水量：西日本日本海側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった一方、北・東日本日本海側で多かった

上旬：北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。一方、西日本日本海側で少なかった。

中旬：北・東日本日本海側で多かった。一方、西日本日本海側、西日本太平洋側で少なかった。

下旬：東・西日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本日本海側と北日本太平洋側で少なかった。一方、東日本日本海側で多かった。

### 2022年10月との比較：上旬はやや少ない地域が多く、中旬は北・東日本で多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2023年10月 (今年)			2022年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	169	128	75	154	67	56	15	61	19
太平洋側	102	75	49	144	24	53	-42	51	-4
東日本 日本海側	128	109	121	186	33	25	-58	76	96
太平洋側	102	66	8	85	29	10	17	37	-2
西日本 日本海側	59	27	27	100	44	46	-41	-17	-19
太平洋側	92	29	12	74	42	5	18	-13	7

#### 平年差

平年比150%以上  
平年比125%~149%

平年比50%以下  
平年比51%~75%

#### 前年差

+50%以上  
+25~49%

-50%以下  
-25~-49%

気象庁報道資料「10月の気候」を参考に事務局作成

# スーパーマーケット景気動向調査

2023年11月調査結果（10月実績）  
（2023年11月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

# 11月調査（10月実績）結果概況

## 景気判断DI 現状判断は4か月連続で50台を維持

10月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.5の50.2と小幅に悪化したものの、4か月連続で判断の分かれ目である50を上回った。見通し判断は前月から+1.2の47.1となり、小幅に改善した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月に比べ小幅に上昇した。引き続き生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIが高水準で推移し、販売価格DIが高止まりする状況が続く。客単価DIや来客数DIもほぼ前月並みの水準で推移している。

カテゴリー動向調査では、前月から好調の傾向に大きな変化はなく、相場高の青果DI、相場が比較的安定した水産DIはプラス圏、相場高傾向の畜産DIはマイナス圏での推移となっている。調理敬遠指向や、イベントの再開等により惣菜DIは高水準を維持、値上げによる単価増の日配DIは鍋物関連の水物、練物など冬物商材が伸び悩んだが、引き続き好調を持続している。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査は、基調に大きな変化はなく、全般的にほぼ前月水準で堅調な推移が続いている。売上高の好調もあり、景気判断DI現状判断は50を上回る水準を維持している。（長期傾向についてはP11参照）

値上げによる単価上昇と、客数・買上点数減少のせめぎ合いが続くなかで、気温が高く、雨が少ない月となり、好調を維持する10月となった。他業態との価格競合が再燃しつつあるなかで、秋から一気に冬の到来を迎える11月、天候や気温にあわせてメニューを訴求できるスーパーマーケットの強みを発揮したい。

### 景況感調査

#### 現状判断

**景気判断DI**  
当月：50.2 (-0.5)  
前月：50.7

**消費者購買意欲DI**  
当月：49.1 (+0.5)  
前月：48.6

**周辺地域 競合状況DI**  
当月：47.2 (-0.4)  
前月：47.6

**店舗周辺地域 景気判断DI**  
当月：48.6 (-1.4)  
前月：50.0

#### 見通し判断

**景気判断DI**  
当月：47.1 (+1.2)  
前月：45.9

**消費者購買意欲DI**  
当月：47.2 (+0.9)  
前月：46.3

**周辺地域 競合状況DI**  
当月：45.2 (+0.5)  
前月：44.7

**店舗周辺地域 景気判断DI**  
当月：46.7 (-1.5)  
前月：48.2

### 経営動向調査 経営状況

**売上高DI**  
当月：12.4 (+2.7)  
前月：9.7

**客単価DI**  
当月：14.9 (+0.2)  
前月：14.7

**来客数DI**  
当月：-4.0 (-0.6)  
前月：-3.4

**収益DI**  
当月：9.6 (+2.0)  
前月：7.6

**販売価格DI**  
当月：24.8 (-1.8)  
前月：26.6

**生鮮品仕入原価DI**  
当月：19.2 (-4.0)  
前月：23.2

**食品仕入原価DI**  
当月：22.8 (-2.3)  
前月：25.1

### カテゴリー動向

**青果DI**  
当月：16.8 (+6.1)  
前月：10.7

**水産DI**  
当月：8.6 (-3.1)  
前月：11.7

**畜産DI**  
当月：-5.7 (+0.3)  
前月：-6.0

**惣菜DI**  
当月：15.8 (-5.6)  
前月：21.4

**日配DI**  
当月：17.6 (-1.5)  
前月：19.1

**一般食品DI**  
当月：8.4 (+4.1)  
前月：4.3

**非食品DI**  
当月：-1.5 (+6.9)  
前月：-8.4

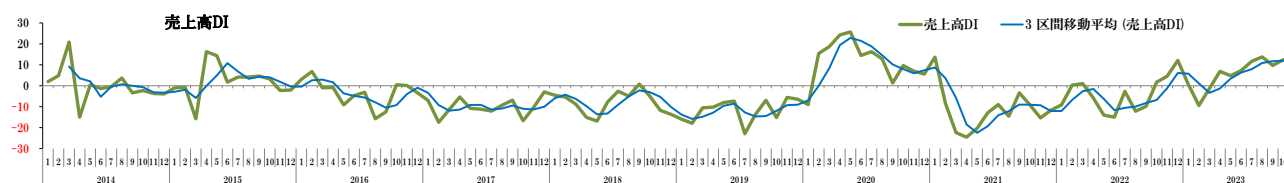
※DI値は前年同月との比較 / ()内は前月DIからの変化

# 結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

## 1. 売上高DI

当月上昇し、プラス幅を拡大

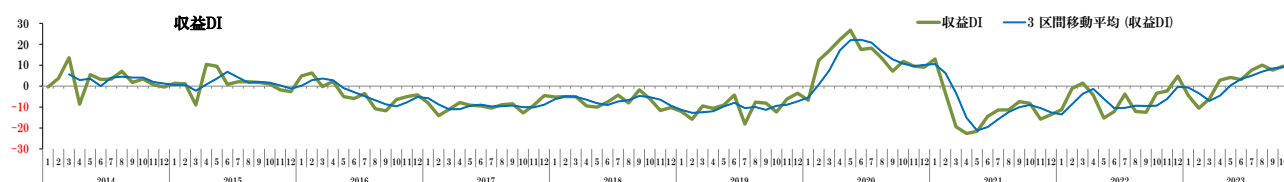
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	4.0	18.6	20.9	47.5	9.0	9.7
<b>売上高 (当月)</b>	<b>1.4</b>	<b>14.9</b>	<b>26.2</b>	<b>47.5</b>	<b>9.9</b>	<b>12.4</b>



## 2. 収益DI

当月小幅に上昇し、プラス幅を拡大

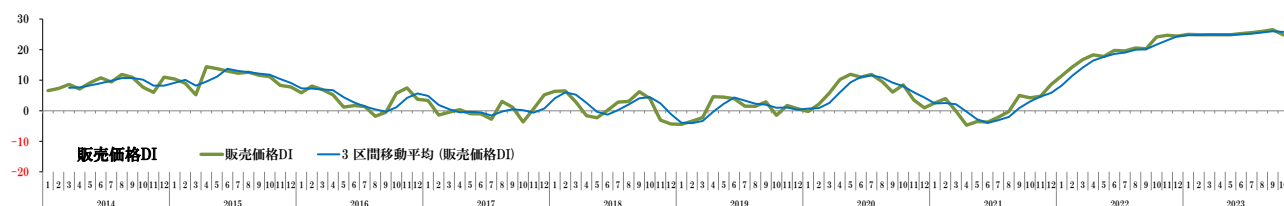
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	2.3	22.4	31.0	31.0	13.2	7.6
<b>収益 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>16.7</b>	<b>39.1</b>	<b>33.3</b>	<b>10.9</b>	<b>9.6</b>



## 3. 販売価格DI

前月からほぼ横ばい、引き続き最高値付近で推移

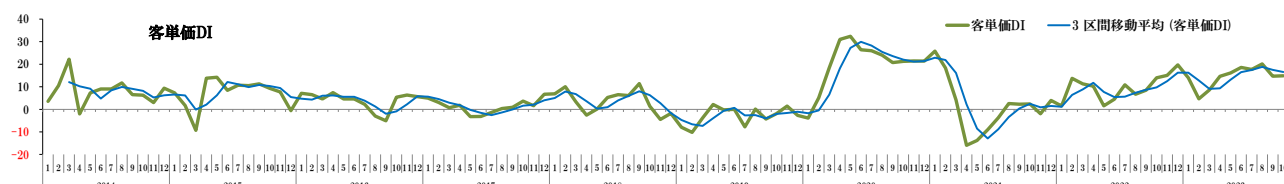
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	1.7	8.6	71.4	18.3	26.6
<b>販売価格 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>0.7</b>	<b>14.0</b>	<b>70.6</b>	<b>14.7</b>	<b>24.8</b>



## 4. 客単価DI

前月からほぼ横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.7	5.6	28.8	59.9	4.0	14.7
<b>客単価 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>7.1</b>	<b>29.1</b>	<b>58.2</b>	<b>5.0</b>	<b>14.9</b>

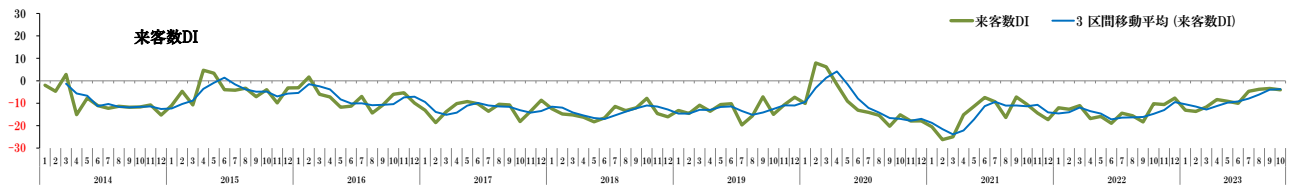




## 5. 来客数 DI

前月からほぼ横ばいでの推移

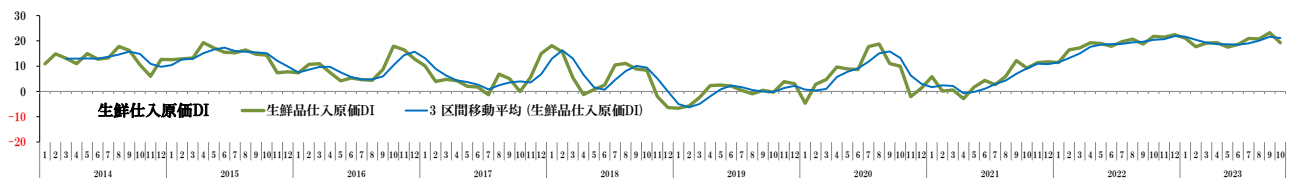
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	6.3	31.3	35.2	24.4	2.8	-3.4
<b>来客数 (当月)</b>	<b>2.1</b>	<b>38.0</b>	<b>36.6</b>	<b>20.4</b>	<b>2.8</b>	<b>-4.0</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

前月から小幅に下落も、二桁プラス水準で推移

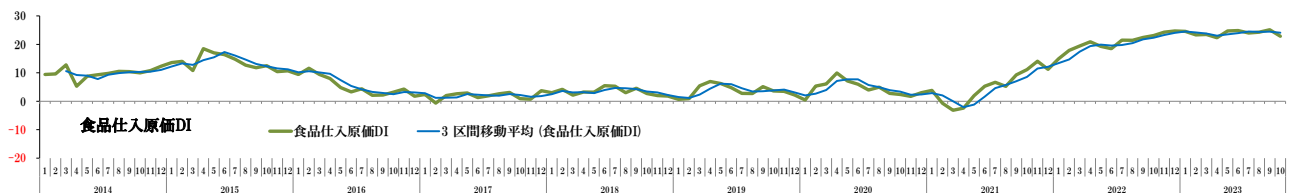
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.2	2.9	12.3	69.0	14.6	23.2
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>6.5</b>	<b>20.1</b>	<b>63.3</b>	<b>10.1</b>	<b>19.2</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

前月から小幅に下落も、30か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	2.9	10.5	67.3	18.7	25.1
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>2.2</b>	<b>17.3</b>	<b>64.7</b>	<b>15.1</b>	<b>22.8</b>

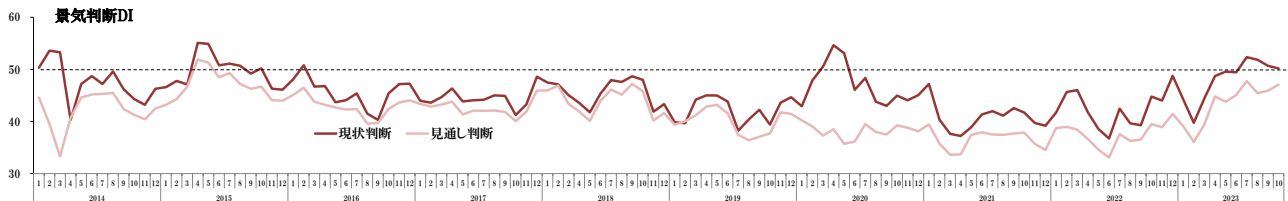


## II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は横ばいも、4か月連続で50台を維持

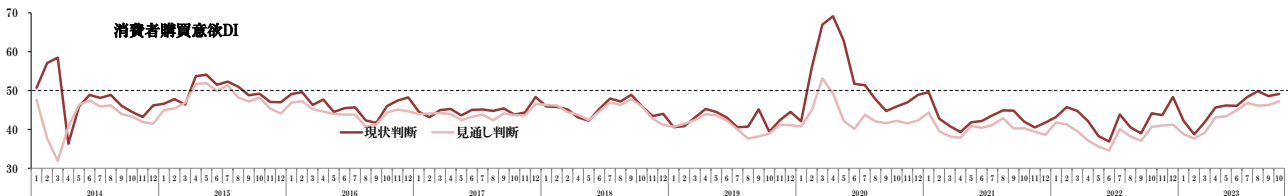
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	1.7	14.0	64.0	20.2	0.0	50.7
<b>【現状】景況判断 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>15.2</b>	<b>69.0</b>	<b>15.9</b>	<b>0.0</b>	<b>50.2</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	2.3	25.4	58.8	13.6	0.0	45.9
<b>【見通し】景況判断 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>22.8</b>	<b>66.2</b>	<b>11.0</b>	<b>0.0</b>	<b>47.1</b>



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

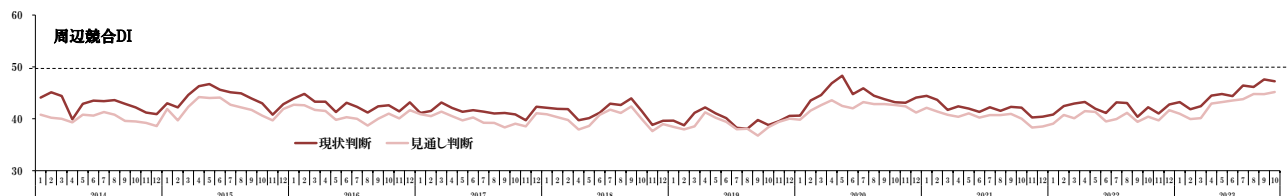
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	18.6	65.0	15.3	0.0	48.6
<b>【現状】購買意欲 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>16.6</b>	<b>70.3</b>	<b>13.1</b>	<b>0.0</b>	<b>49.1</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.1	25.1	61.1	12.6	0.0	46.3
<b>【見通し】購買意欲 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>20.7</b>	<b>69.7</b>	<b>9.7</b>	<b>0.0</b>	<b>47.2</b>



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

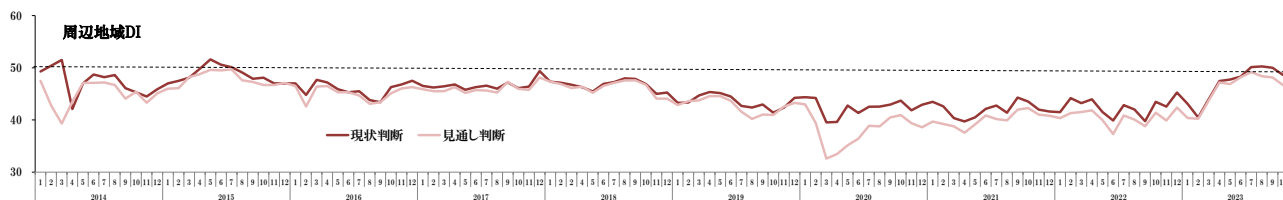
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.7	13.0	78.5	6.8	0.0	47.6
<b>【現状】競合状況 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>14.6</b>	<b>79.9</b>	<b>4.9</b>	<b>0.0</b>	<b>47.2</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	2.8	21.0	70.5	5.7	0.0	44.7
<b>【見通し】競合状況 (当月)</b>	<b>2.8</b>	<b>17.9</b>	<b>75.2</b>	<b>4.1</b>	<b>0.0</b>	<b>45.2</b>



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に前月から小幅に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.6	10.7	77.0	11.8	0.0	50.0
【現状】地域景気(当月)	0.0	11.9	81.8	6.3	0.0	48.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.6	15.9	73.9	9.7	0.0	48.2
【見通し】地域景気(当月)	0.0	18.2	76.9	4.9	0.0	46.7

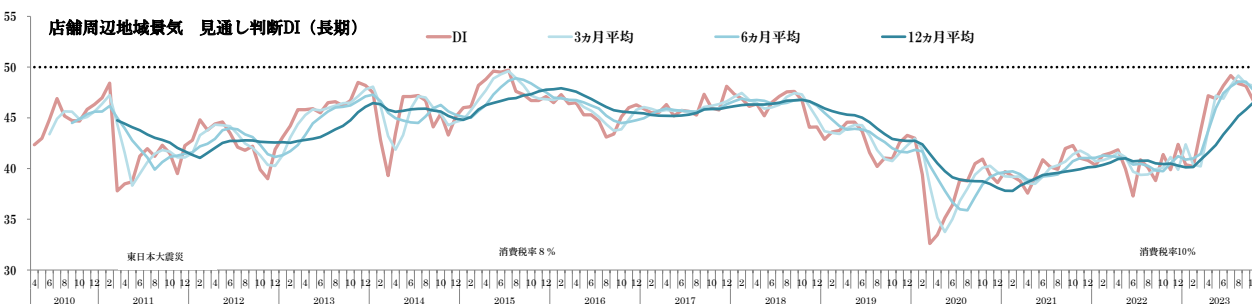
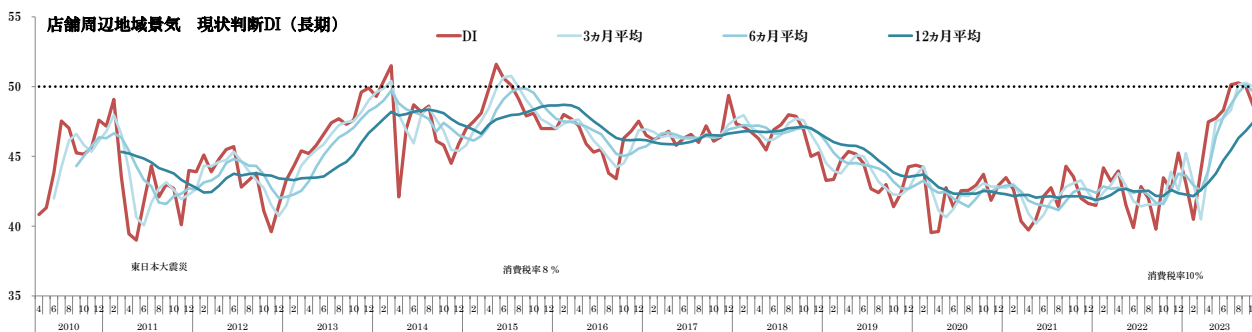


#### ・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向(2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

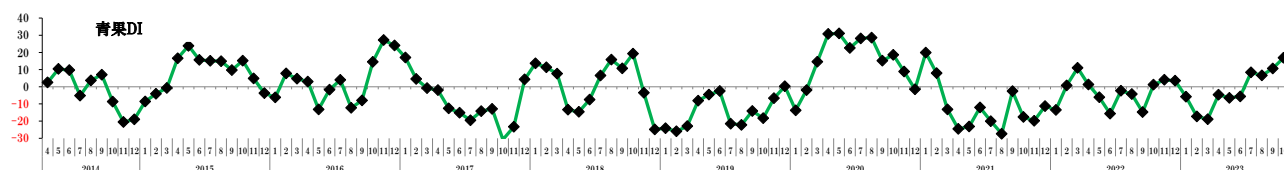
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破した。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：16.8（好調）

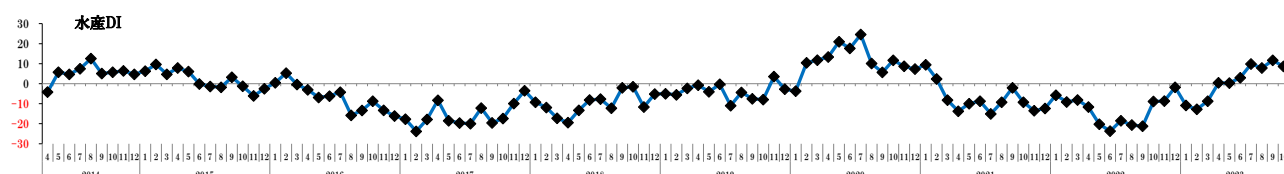
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.6	17.2	24.9	42.0	12.4	10.7
<b>青果（当月）</b>	<b>0.7</b>	<b>14.5</b>	<b>23.2</b>	<b>39.9</b>	<b>21.7</b>	<b>16.8</b>



高温が続いたことで野菜、果物が相場高となり単価が上昇、売上高としては好調となった。品質低下や不安定な入荷状況の影響を受けた店舗もみられた。価格が高騰したトマト、キュウリなどのサラダ関連、カット野菜は好調に推移したが、レタスやほうれん草などの葉物類は品質低下で苦戦した店舗も。ナスやピーマンなど炒め物関連野菜の動きがよかった。鍋関連野菜は残暑と価格高騰で白菜、ネギなどは低調も、相場が安定しているキノコ類は堅調となった。国産果実ではリンゴや梨が品質低下、品不足の影響を受けたが、柿やみかん、ブドウは好調の声が多い。輸入果実は低価格のバナナが好調となった。

#### 2. 水産DI：8.6（やや好調）

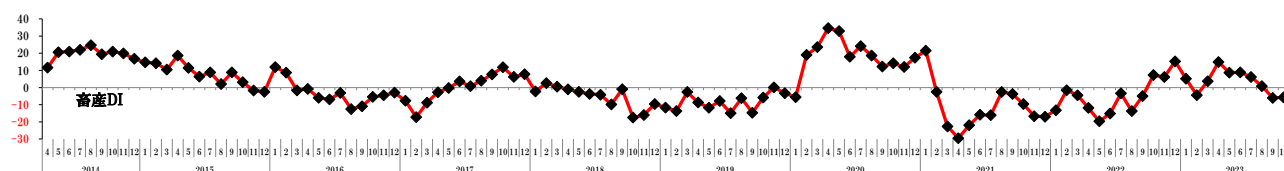
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	3.6	17.8	23.7	38.5	16.6	11.7
<b>水産（当月）</b>	<b>1.4</b>	<b>19.4</b>	<b>33.1</b>	<b>35.3</b>	<b>10.8</b>	<b>8.6</b>



相場が落ち着き、入荷が安定した魚種がみられ、比較的好調に推移した。マグロを中心に刺身類は相場が安定し好調、ブリの切身も動きがよい。サンマは前年に比べ回復した店舗もみられたが、秋鮭は入荷が不安定で不振とのコメントが多い。アトランティックサーモンを拡販し好調とのコメントも寄せられている。貝類は消費拡大気運の高まるホタテを中心に、塩干類は魚卵を中心に好調。冷凍品ではエビ類の動きがよかった。鍋関連の動きは鈍いが、月の後半から動きはじめた地域もみられた。

#### 3. 畜産DI：-5.7（やや不調）

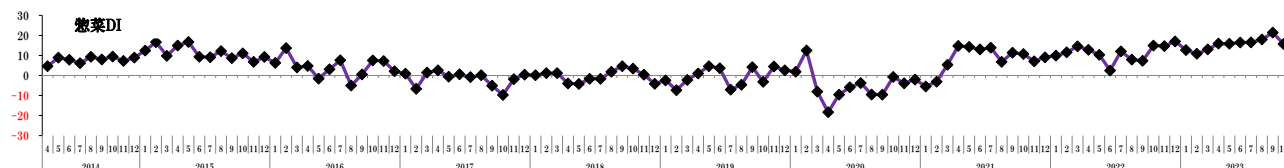
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	12.4	32.9	25.3	25.3	4.1	-6.0
<b>畜産（当月）</b>	<b>8.6</b>	<b>33.6</b>	<b>35.0</b>	<b>17.9</b>	<b>5.0</b>	<b>-5.7</b>



精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉、さらに鶏肉に需要がシフトする傾向が続いている。鍋需要の低迷も加わり、カテゴリーとしてはやや不調となった。牛肉は相場高で苦戦した店舗が多い。豚肉は国産価格の高騰は落ち着きがみられたが、小間切れや挽肉など普段使いの商品を中心に動きがよい。相場の安定している鶏肉だが、値ごろなムネ肉が好調となった。ハムやソーセージなどの加工肉は回復傾向のコメントもみられた。

#### 4. 惣菜DI：15.8（好調）

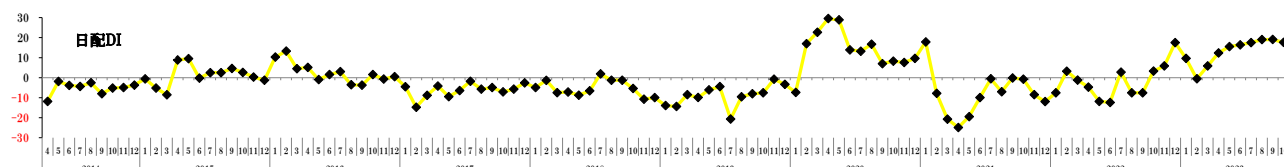
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.4	6.0	19.0	48.8	23.8	21.4
<b>惣菜（当月）</b>	<b>2.2</b>	<b>8.0</b>	<b>29.7</b>	<b>44.9</b>	<b>15.2</b>	<b>15.8</b>



家庭での電気・ガス代高騰や調理敬遠を追い風に、天ぷらや唐揚げ、コロッケなど揚物類、焼鳥などの焼物類は好調を持続。通勤や外出の増加による昼食・夕食需要の回復も続いており米飯類の動きがよかった。寿司関連も好調だが、一部には海苔の高騰による売価変更の影響を受けた店舗もみられた。秋祭りなどのイベント需要が牽引した店舗や、ハロウィン、秋の味覚を訴求する販売方法で成果を挙げたとのコメントもみられた。

#### 5. 日配DI：17.6（好調）

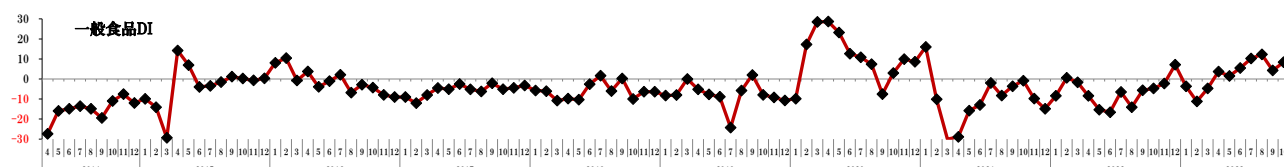
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	1.8	8.3	26.0	39.6	24.3	19.1
<b>日配（当月）</b>	<b>0.0</b>	<b>8.6</b>	<b>28.8</b>	<b>46.0</b>	<b>16.5</b>	<b>17.6</b>



値上げの影響が大きいカテゴリーとなっているが、一般的に買上点数の減少は小さく、一品単価上昇により、販売額は引き続き好調に推移している。価格改定のあったパンが好調とのコメントが多い。鶏卵は、価格が高止まりしつつ商品供給が回復し売上増となった。冷凍食品、なかでも冷凍野菜は青果相場高を追い風に好調を持続。再値上げの牛乳など乳製品、納豆や豆腐など、食生活に欠かせないベーシックな商品群は点数減が小幅で、売上が伸長した店舗が多い。鍋関連の水物や練物は、高温で苦戦したものの、朝晩の冷え込みが強まった月の後半から動きがよくなったとのコメントもみられた。

#### 6. 一般食品：8.4（やや好調）

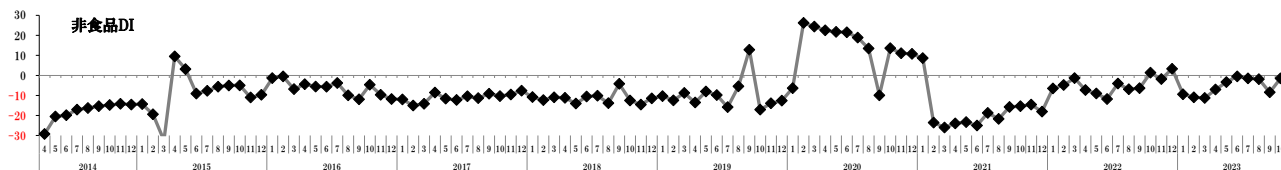
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.3	24.9	24.9	37.3	7.7	4.3
<b>一般食品（当月）</b>	<b>3.6</b>	<b>17.1</b>	<b>30.7</b>	<b>39.3</b>	<b>9.3</b>	<b>8.4</b>



一般的に販売価格上昇による買上点数の抑制傾向がみられるものの、残暑により飲料、乾麺類などが好調となった。一方で、鍋つゆやスープ類などの秋冬商材が不振となった。菓子類はハロウィンなどイベント需要で好調だが、チョコレート類は値上げで単価が上昇しており、好不調の判断が分かれた。食用油や調味料類は、調理敬遠傾向の影響を受け動きが悪い。新米は高温障害による品質の低下がみられ相場高傾向も、節約志向を受けてか販売数量に回復傾向がみられる。10月からの酒税改定により、ビールが好調となった。

## 7. 非食品DI：-1.5（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	15.3	29.4	31.9	20.2	3.1	-8.4
非食品（当月）	8.0	25.5	37.2	22.6	6.6	-1.5



殺虫剤や虫ケア用品などが高温で好調を持続した一方、カイロなど冬物商材の動きが悪い。ハンドソープ、除菌関連など衛生用品は需要減少が続いているが、インフルエンザ流行を受けてマスクには回復傾向もみられた。単価が上昇したペットフード、トイレトペーパー・キッチンペーパーなど紙製品は好調に推移に推移した。

### カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20      好調：20～10      やや好調：10～0  
 やや不調：0～-10      不調：-10～-20      かなり不調：-20～

### 2023年11月調査（10月実績）キーワードTOP3

1. 高温による夏物商材好調持続、秋冬商材不振
2. 価格上昇による単価上昇
3. 行事・イベントの再開

### （参考）2022年11月調査（10月実績）キーワードTOP3

1. 価格上昇による単価上昇
2. 内食需要低下と買い控えによる買上点数減
3. 前年より低い気温による季節商材好調

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

10月実績速報版      145社  
 9月実績確報版      178社

### スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)